大阪府#8000 におけるコロナウイルス感染関連の相談 2020 年 1 月~7 月のまとめ

2020年1月~7月における#8000の相談のうち、相談時および録音チェック時に、コロナウイルス感染に関連した相談(以下、コロナの相談)と認識された電話相談について、集計した。

1. 相談件数と月別推移

コロナの相談件数は4月に急増、6月に向かい減少傾向であったが、7月に再度増加した。この間#8000全体の相談は昨年度に比べて少なく、5月の相談件数は昨年度の53%であった。

月	件数	コロナ/全体	全体の相談件 数	昨年相談件数	今年/昨年
1月	5	0.1%	5,443	6,045	90.0%
2月	15	0.3%	4,570	4,716	96.9%
3月	27	0.7%	3,669	4,930	74.4%
4月	217	7.0%	3,111	5,772	53.9%
5月	132	4.2%	3,167	5,945	53.3%
6月	66	2.0%	3,220	5,532	58.2%
7月	126	3.4%	3,731	5,426	68.8%
総計	588	2.2%	26,911	38,366	70.1%

表 1. コロナの相談と全体の相談月別件数

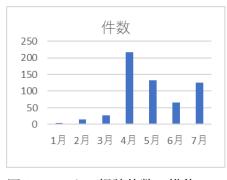


図1. コロナの相談件数の推移

2. 子どもの年齢

コロナの相談では、0歳児が少なく、1歳児が全体の26%を占めた。#8000の相談は3歳児以下が4分の3を占めるが、コロナの相談では幼稚園・小中学校の年齢層からの相談も比較的多かった。7月は学校再開後、若年層を中心にコロナ感染拡大が見られた時期だが、#8000の相談も幼稚園・小中学校の年齢層の比率が高かった。

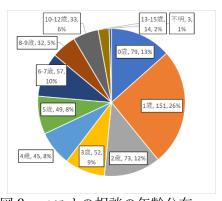


図2. コロナの相談の年齢分布

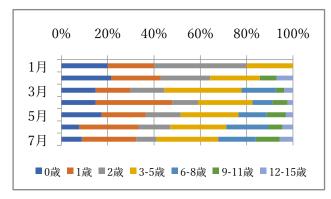


図3. コロナの相談の年齢比率の推移

3. コロナの相談の症状

発熱が 84.0%と非常に多く、呼吸器症状・消化器症状が少数認められた。発熱に呼吸器症状など他の症状が重なった例も 85 例認められた。手足の痛みや熱傷などその他の症状には、コロナ感染を心配して受診を控えた方がよいかといった相談も多かった。

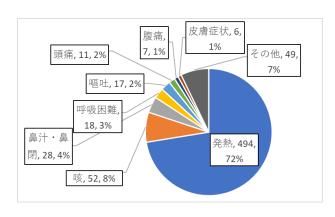


図4. コロナの相談の主な症状

4. コロナの相談内容

相談内容を整理すると、表 2 に示すように、今の症状がコロナ感染の可能性がないかといった相談が 52.7%と最も多く、次には受診先での感染を心配する相談が 23.6%を占めた。どこに受診すればいいかといった相談が 1 割、家族が感染や濃厚接触者の場合などの相談が1割弱であった。月別推移では、当初感染の可能性の相談が数例あったが、4月には症状の相談と感染の心配が急増した。感染者が再度増加した 7 月には症状の相談と受診先の相談が増えた。下位の項目では、4 月には保健所からの紹介や心理的な不安の相談が多かったが、7 月は検査を受けるにはどうしたらいいかといった相談が多く、感染が身近になったが、具体的な対応を求める相談が増加した。

表 2. コロナの相談内容

相談内容	件数	%
症状の相談	310	52.7%
受診先での感染が心配	139	23.6%
受診先・受診先への連絡など	64	10.9%
感染の可能性	56	9.5%
保健所からの紹介	36	6.1%
検査希望	25	4.3%
コロナ感染への質問	22	3.7%
不安が前面	19	3.2%
坐剤・解熱薬	17	2.9%
登園・登校など	8	1.4%
その他	28	4.8%
合計	724	123.1%
n	588	100.0%

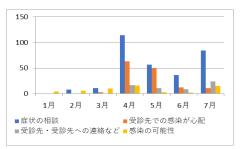


図 5. コロナの相談内容の推移:上位の項目
30
20
10
11月 2月 3月 4月 5月 6月 7月
■保健所からの紹介 ■検査希望
■コロナ感染への質問■不安が前面
■坐剤・解熱薬 ■登園・登校など

図 6. コロナの相談内容の推移:下位の項目

4. コロナの相談への対応

すぐ受診・急診を紹介は全体では9.8%と少なく、翌日かかりつけ医を受診が41.8%であった。図7に月別推移を示した。翌日保健所に相談は、5月以後は助言のみに含んでいる。7月に件数が再度増加したが、助言のみの件数が増え、緊急性についてはそれほど問題は感じられていない。

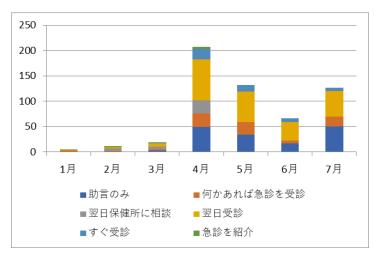


図7. 対応の推移